

東日本大震災 教育復興支援レポート 2018

～ユネスコ協会就学支援奨学金～



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

絶えることのない学びを子どもたちに

東日本大震災から8年が経過しました。

大震災で犠牲となられた皆さまに改めて哀悼の意を表しますとともに、いまなお不自由な生活をおくられている皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。

日本ユネスコ協会連盟では、2018年度も被災地の子どもたちの学びが絶えることがないように「ユネスコ協会就学支援奨学金」を届けました。また、これまでの8年間で、3286人の子どもたちを支えることができました。これもひとえに、東北の子どもたちに想いを寄せてくださる全国の支援者の皆さまのおかげであり、心より御礼申し上げます。

被災地では、防潮堤や漁港などの復興工事や、高台での住宅再建などが進み、新しいまちづくりが進んでいます。一方で、現在も津波の被害を受けた土地のかさ上げ工事が続き、経済や産業の復興にはまだ時間を要する中、子どもたちの教育費の捻出に苦労されているご家庭が多い状況です。

子どもたちが高校進学をあきらめることなく、安心して学校に通い、夢に向かって前進できるよう、私たちはこれからも支援を継続してまいります。

引き続き、皆さまからの変わらぬご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



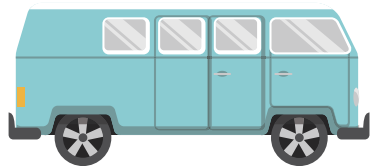
公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

会長 佐藤 美樹



目次

- | | |
|---|---------------------------|
| 01 私たちが8年間で取り組んだこと | 10 子どもたちから、ご家庭から、「ありがとう！」 |
| 02 ユネスコ協会就学支援奨学金 | 12 被災地のいま |
| 03 奨学生のいま ～奨学生インタビュー～ | 13 会計報告／ご協力方法 |
| 04 「勉強とサッカーを両立しながら整備士を目指したい」
安田哲也さん | 14 子どもたちの学びを支える支援の輪 |
| 05 「希望校に入学し部活では部長としてがんばっています」
山口美佳さん | 15 東北支援 TOPICS |
| 06 「いちばんの憧れはイラストやデザインの仕事」
川本夏実さん | 16 日本ユネスコ協会連盟の活動 |
| 07 「新しい環境でいろいろ挑戦して世界を広げたい」
松本綺羅さん | |
| 08 「子どもたちに夢を与えたいからゲームクリエイターに」
高山秀行さん | |
| 09 「社会とつながって地域や人のために行動したい」
杉山さやかさん | |



東日本大震災子ども支援募金 私たちが8年間で 取り組んだこと

学校への緊急物資支援

2011 年度完了

学校を再開するために、まず行ったのが緊急物資支援でした。被災により学習に必要な備品が流出してしまったため、144校・2教育委員会に対し、学校のニーズにあわせて、教材類や体育用具などの支援物資を届けました。また、仮設住宅や避難所と学校をつなぐスクールバスも支援しました。



文化・郷土芸能への支援

2011 年度～
2013 年度完了

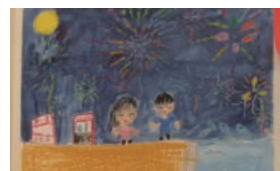
震災によって危機に瀕した東北の祭り・文化を救ってほしい。そんな被災地の声を受けて、失われつつある日本の自然・文化を未来へ伝える「未来遺産運動」の一環として、人びとの気持ちをつなぐ郷土芸能や祭りへの物資支援を実施しました。



心のケア支援

2011 年度～
2015 年度完了

地震と津波への恐怖から強い不安を抱いている子どもたちの心理的ストレスをやわらげるために、夏休みにキャンプや絵画コンテストなどを実施しました。



社会教育・コミュニティ支援

2011 年度～
2018 年度完了

被災地では、仮設住宅で暮らすなど、生活環境が大きく変化しました。被災地のコミュニティ再生を目指して、コミュニティ図書館、学童保育所、移動図書館車、相撲場などを支援しました。



ユネスコ協会就学支援奨学金

2011 年度
～継続中

経済状況が悪化したご家庭の子どもたちが安心して学校に通えるように、返還不要の奨学金を3年間にわたって支援する活動を行っています。

≫ 2018 年度の活動 … P02-14



MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金

2011 年度
～継続中

両親もしくはいずれかの保護者が死亡・行方不明になってしまった子どもを対象とした、給付型の奨学金を支援しています。その他、TOMODACHI・MUFG国際交流プログラムなど、子どもたちの心豊かな成長を応援する支援も行っています。

※2018年度の活動報告は、別冊「活動レポート2018」をご覧ください。



アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム



2014 年度
～継続中

東日本大震災の経験や教訓を全国の学校防災につなげるために、学校への活動助成、教員研修会、実践報告会を実施しています。

※2018年度の活動報告は、別冊「活動レポート2018」をご覧ください。



ユネスコ協会就学支援奨学金

子どもたちの高校進学を支えるために



概要

対象者

津波による家屋の流失・損壊や原発事故の影響による避難などの理由で経済状況が悪化した家庭の、高校進学を希望する中学3年生。

※震災により、保護者を亡くした生徒を除きます。

対象地域

岩手、宮城、福島で、被害の大きかった市町村を特定して実施しています。

給付金額と期限

奨学生1人あたり月額2万円を3年間給付します。(中学3年次から高校2年次まで)

※返還不要の奨学金です。

※奨学金は、子どもたちのご家庭に直接支援しています。

2018年度の支援

2018年度は、2016年度、2017年度に採用した奨学生への継続給付を行うとともに、大槌町、陸前高田市、石巻市、気仙沼市、東松島市で新規採用を行いました。

受給者数 692名

支援地域

岩手県／大槌町、陸前高田市
宮城県／石巻市、気仙沼市、東松島市

2018年度
奨学金給付額

1億6560万円

2011～2018年度までの累計受給者数

… 3286名 (25市町村)

奨学金は、それぞれのご家庭で子どもたちの高校進学に必要な費用や学校生活のために、大切に役立てられています。

ユネスコ協会就学支援奨学金の活動はホームページにも掲載しています。

<https://www.unesco.or.jp/activities/saigai/#no1>



奨学生のいま

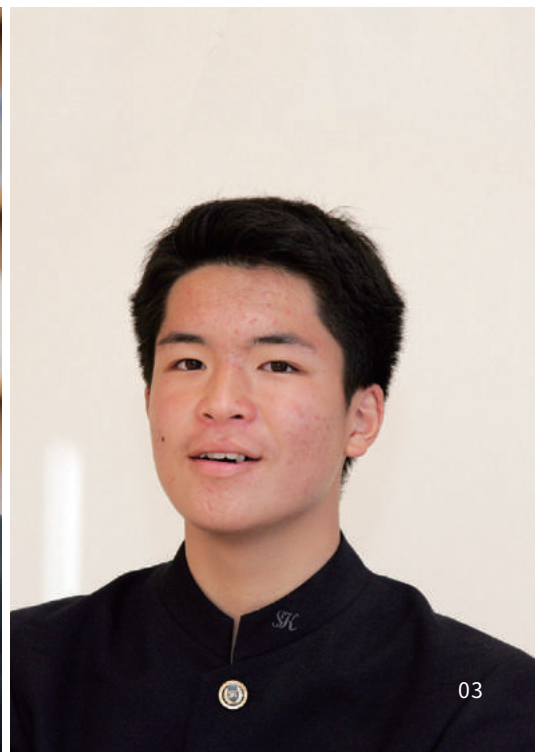
奨学生インタビュー

震災から8年を経て、震災の記憶がうすれつつあります。

しかし、被災された方々にとっては、まだ8年。被災地に立つと、空き地の目立つまちの姿に、復興への道のりの遠さを感じます。住まいや暮らしの再建だけでなく、子どもたちの学費に頭を悩ませるご家庭も少なくありません。ユネスコ協会就学支援奨学金は、そんなご家庭の子どもたちの学びを継続して支えています。

今年も、生き生きと夢を語る奨学生たちのいまをお伝えします。

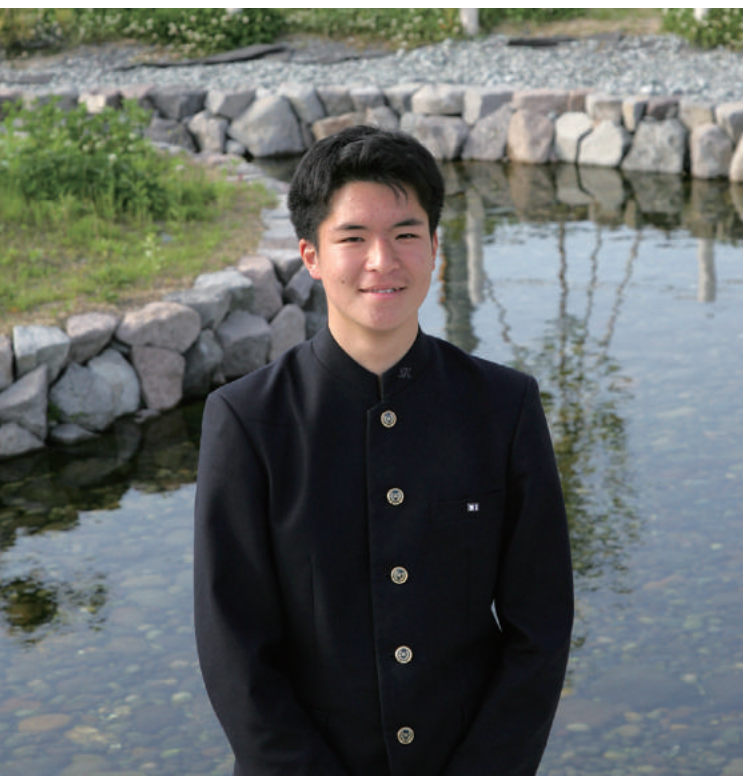
※奨学生や家族の名前は仮名です。学年は取材当時のものです。



勉強とサッカーを 両立しながら 整備士を目指したい

安田哲也さん(仮名)

岩手県上閉伊郡大槌町 高校1年生



いちばん楽しいのは友達と一緒にいるとき。「仲よしはいっぱいいます」

2019年3月、震災以来、復旧が望まれていたJR山田線の宮古～釜石間が開通し、三陸鉄道に運営移管されました。これによって、北は久慈(くじ)駅から南は大船渡の盛(さかり)駅まで、第三セクターとしては日本最長の163kmが三陸鉄道リアス線としてつながりました。再建された大槌駅から隣の釜石駅まで、「三鉄(さんてつ)」として愛されるこの鉄道で通学しているのが安田哲也さんです。

大槌湾に浮かぶ蓬莱(ほうらい)島は、NHKの人形劇「ひょっこりひょうたん島」(1964年放送開始)のモデルになったとされます。そのひょうたん形を模した真新しい大槌駅から、毎朝7時過ぎの列車に乗車。わずか1車両なのですがぐにいっぱいになってしまう、のどかな満員列車での通学です。

高校では機械科を選んだという哲也さん。理由は、自分の夢に近づける資格が取れるからだといいます。

「僕の夢は、電車や飛行機の整備士になること。小さいころから車などの乗りものが好きで、とくにその構造に興味があります。それで、整備士に必要な機械加工技能士の資格が取れると知って機械科に入りました」

整備士を目指すだけあって、好きな授業は数学。計算のほか、とくに図形の角度を求めたりするのが得意だといいます。

「数学のほかには、鉄を溶かしたり、ガスバーナーで金属を切断したりする溶接実習が1年から始まっていて、それも楽しいです」

すでに新しい友だちができ、先生方も「面白い先生しかない」という学校で、自分のなりたい職業に向かって学んでいます。

ずっとサッカーを続けてきた

小学生のころ始めたサッカーは、哲也さんが大好きなスポーツです。中学でもサッカー部に入り、2年生からは大人に混じって地元のフットサルチームでもプレーしました。もちろん高校でもサッカー部。以前はフォワードでしたが、いまはキーパーの練習もしているそうです。

「キーパーはまだ慣れないので、滑ったりして痛いときもあるけど頑張っています。高校のサッカー部はちょっと厳しいですが、先輩たちと一緒にやるのは楽しい。個人個人のテクニックがすごいなあと思います」

放課後と土曜日は練習、日曜も練習試合などがあるため、勉強しているとき以外はサッカー一色の日々。友だちと遊ぶときも、サッカーをすることがよくあるとか。海外チームの試合もよく見ます。「好きなサッカー選手はアントワヌ・グリーズマン。フランス代表なので、もし海外旅行に行くとしたら、いつかお金を貯めて彼の出身地フランスに行ってみたいです」

学校の皆で山に登って避難

8年前の震災で、大槌町は地震と津波、さらに一帯の火災によって甚大な被害を受けました。震災のとき、哲也さんは小学1年生。その日は日直でした。

「さよならをいった瞬間にゴーッとなって、全校生徒で校庭の真ん中に集合して、地面が割れたりして怖かったのを覚えています。でも先生が落ち着かせてくれて、裏の城山に皆で急いで登って、上から町を見ていました。泣いている人もいました」

それから山の上にある城山公園の体育館に避難。一方、父の友則さんは、職場のある釜石で被災してその日は帰れず、携帯も通じません。子どもたちが心配で翌朝4時間歩いて帰りましたが、哲也さんと会えたのはさらにその翌日だったそうです。家族は無事だったものの、その後の生活再建に無我夢中だった友則さん。

「震災のとき哲也は小学1年生。双子の娘たちは3、4歳。幼い子ども3人を抱えて全壊した家をローンで再建。生活は大変でした。そんな中、哲也は友だちも多く、妹たちの面倒をよくみるいいお兄ちゃんでした。哲也には、目標に向かって元気に育ってほしいです」

支援者の方々に対して、哲也さん自らがこう語ってくれました。

「奨学金をいただいて、三鉄リアス線の定期とか、いろいろなことに使わせてもらって、とても助かっています。部活でもユニフォームやスパイク代のほか、遠征などもあるので役立てていきたいです」



子どものころから続けてきたサッカーで真剣な表情

希望校に入学し 部活では部長として がんばっています

山口美佳さん(仮名)

岩手県陸前高田市 高校2年生

いろいろな人に支えられた高校進学

山口美佳さんは子どものころ、授業についていくのが少しゆっくりだったため、小学2年生から中学まで特別支援学級で学びました。先生の提案だったそうですが、父、靖友さんも、急かさず、本人のペースでやれば良いと思ったそうです。しかし、そのまま支援学級の高等科へ進むつもりが、中学2年のとき、担任の先生に「普通高校を受験してみないか」と勧められたのです。先生たちも皆でサポートするからと。静かに見守ってきた靖友さんは、こう振り返ります。「本人がやる気になったので、背中を押してやろうと思いました。高校に合格したら、その後の選択肢も広がりますので。ただ、こちらから『勉強しろ』とはいいいませんでした」

中学3年から普通学級に編入した美佳さん。それまでのゆっくりとしたペースとは違い、授業についていくのがやっと。そして、厳しい受験勉強が始まりました。

「授業が終わると皆はずぐ帰るのだけど、私は学校に残って先生と一緒に勉強。必死だったので、ほとんど毎日残って頑張りました。授業がわからないときは、友だちにも教えてもらいました」

1年間の努力の甲斐あって、第一志望の県立高校に見事、合格。先生や仲間たち、そして温かい家族に支えられた結果です。

人との触れ合いで 苦手なコミュニケーションを克服

高校は少人数制で、地域の人たちとの交流も多いといいます。この学校で、美佳さんは次々と新しいことに挑戦してきました。

そのひとつがボランティア活動です。学校では毎年いろいろなボランティアを募り、生徒は自由に選べるのだとか。美佳さんは、町の森林公園で保育園の子どもたちと過ごすボランティアのほか、お年寄りの家で掃除などの手伝いも経験しました。

「子どもたちは自由に動き回るので、ちゃんと見ているのが大変だったけど、とても楽しかったです。お年寄りのお手伝いをしたときは、『ありがとう』といってもらえたのがすごく嬉しかった」

美佳さんが住むのは、被災者のために建てられた復興公営住宅。ここにも震災後に一人暮らしとなったお年寄りが多く、その方々に目がいくようになりました。

「役に立つかはわからないけど、近所に住むお年寄りに声をかけるとか、小さいことでもいいのでやってみたいと思います」

もうひとつ、美佳さんにとって初めての体験は、部活でソフトテニス部を選んだこと。1年の途中からは部長を務めています。

「テニスは初めてなのに、同級生からも先輩からも『部長をやってみたら?』と勧められて、頑張らなくちゃと思いました。皆が支えてくれるので、部を引っ張っていきながら、いいにくいことも指示できる



「奨学金は部活のラケット代や遠征費などにも使わせていただいています」

ようになりました。私は人と接するのが苦手だったのですが、ボランティアや部活などで人と触れ合うことで、コミュニケーションがうまくできるようになりました」

そんな美佳さんは、将来、人とのコミュニケーションが欠かせない販売の仕事に就きたいと考えています。両親は二人とも販売の仕事をしており、中学のときは母の職場に体験学習に行ったとか。「母が働く姿を初めて見て、カッコいいなあと思いました。それが、販売の仕事をやりたいと思ったきっかけです」

できれば地元で働きたいという美佳さん。ふるさと陸前高田は、皆が優しく接してくれるところが好きだといいます。「少しずつ町ができていますが、まだまだ足りない部分はいっぱいあります。だから、応援していきたい」

震災のとき、父の靖友さんはチリ地震津波を経験した祖母の教えでなんとか山に逃げきり、小学2年生だった美佳さんも周りの人たちの助けで祖父母と高台に逃げ、命が助かりました。あれから8年、いろいろな人に支えられ成長してきた美佳さんですが、これからは人に目を配り、ときには支えてあげられるような社会人になってほしい。それが靖友さんの願いです。



好きな授業は数学。「難しいけど、計算するのが楽しい」

いちばんの憧れは イラストや デザインの仕事

川本夏実さん(仮名)

宮城県気仙沼市 高校1年生



「航海実習もあります。
小さいころおじいちゃんの船に乗せてもらっていたので、船に乗るのが好きです」

自分の特技をいかして

川本夏実さんが中学生のころから憧れているのは、イラストを描いたりデザインしたりする仕事。将来はいったん都会へ出て、専門学校で勉強したいと考えています。

そんな夏実さんが進学したのは、地元の高校の産業経済科。この科を選んだのには、理由がありました。2年生になると、生徒自身がサンマの缶詰をつくる実習があり、そのパッケージデザインをしてみたいと思ったのです。地域の産業に役立てようと、道の駅や文化祭などで販売するサンマ缶は人気商品で、パッケージも生徒が手がけています。夏実さんは小さいころから絵を描くのが好きなので、海や船のイラストを入れてデザインしてみたいのだとか。「震災の後、気仙沼の町はいろいろ新しくなって、前の面影がなくなったのが寂しい。高校生になったので、これからは町の復興にも関わっていきたいと思います」

学校の活動を通して気仙沼の復興に関われるのを、いまから楽しみにしています。

部活は、美術部がないという理由から写真部に。まだ活動は始まったばかりですが、秋の文化祭に向けて地元のいろいろな風景を撮りたいといいます。

「気仙沼は海がきれいなので、海の写真を撮りたいです。私が育った家の近くは海に向かって開けていて、そこがいちばんのお気に入りの場所です」

学校では「水産海洋基礎」の授業が一番面白いそう。

「海の中のことや自分の知らないことを、いろいろ教えてもらえるから」

将来のために、簿記や電卓実務などビジネスに必要ないろいろな資格も取りたいそうです。

友だちのいる地元が好き

夏実さんが生まれ育ったのは、太平洋に突き出た半島の地区。家から50m先に海がある、豊かな自然の中でのびのび育ちました。けれども、小学1年生の終わりに震災が発生。自宅は23年分のローンを残して流されてしまいます。その後、一家は避難所から曾祖母の家へ。そして5年間の仮設住宅での暮らしを経て、家を再建したの

は3年前。夏実さんが中学1年生のときです。母の雅子さんはこう振り返ります。

「ダブルローンしてでも家を建てざるを得なかったんです。共働きでは復興公営住宅の家賃が高くなり、家のローンと比べたら家賃のほうが高かったの、家を建てることに決めました。そのローンは25年。そんな事情があるので家計は苦しく、夏実の高校進学のとときには、制服代や通学の定期代など、奨学金が本当にありがたかったです」



「韓国とアメリカに行ってみたい。
韓国ではおいしいものを食べて、アメリカでは最先端のデザインや美術を見てみたいです」

新しい家は、前の家と同じ地区の高台に建てられました。

「前の家は交通の便が悪かったので、私は家を建てるなら便利な市街地の方がいいと思っていました。でも、夏実がどうしても地元がいいと…。津波のために家の基礎部分しか残らず、子どもたちの小さいときの写真まで全部流されてしまいました。それ以来、子どもたちにはいっぱい不自由をさせました。でも、狭い仮設住宅でも夏実は何ひとつ文句をいわず、すごく我慢してきたと思うんです。だから、転校したくない、友だちと離れたくないという思いに押されて、同じ地区に建てることにしました」

友だちに好かれ、頼りにされる夏実さん。高校で新しい友だちもできましたが、地元の友だちもいるのが心強いとか。小さいころからの友だちとは、いまでもずっと仲よしだそうです。

「この前は、地元の友だちと一緒に海に遊びに行きました。まだ肌寒いけど、足まで海に浸かったりして楽しかったです」

毎朝、友だちと一緒にバスで元気に通学。働く母を気遣い、家では掃除や茶碗洗い、夕飯の準備など、家事のお手伝いもしっかりしているそうです。

新しい環境で いろいろ挑戦して 世界を広げたい

松本綺羅さん(仮名)

宮城県東松島市 高校1年生

松本綺羅さんが通っているのは、地元から少し離れた学校。部活と勉強を両立できる進学コースがあるという理由から、この学校を選びました。まだ漠然とですが、大学に進学したいという希望を持っているそうです。苦手な科目は数学と英語。

「とくに英語は、いまはまだ基礎なのでわかりやすいけれど、3年になったら難しくなりそう。世界を広げるためにも、しっかり復習して克服したいです」

学校までは、電車やバスで1時間くらい。地元の友だちとは違う高校になったけれど、寂しくはなかったといいます。

「知り合いはあまりいませんが、新しい環境で高校生活を歩みたいと思いました」

学校は、綺羅さんのように市外から通う生徒はもちろん、県外や外国からの生徒もいます。そんな学校で自分の殻を破って視野を広げてほしいという母、佐和子さんの後押しもありました。高校ですでに何人か友だちができ、休み時間におしゃべりしたり、一緒にお弁当を食べたりするのが楽しいとか。

そして、綺羅さんが部活として選んだのは、これまで経験のなかった軽音楽部です。

「ギターとかドラムに憧れがあって、自分も演奏できるようになりたいと思いました。そのうち、バンドをつくって練習するようになるのかな。私はヨルシカというバンドが好きで、いつかその曲をギターで弾けるようになりたいです」

授業でも音楽が楽しいといいます。中学の授業と違うのは、実際にいろいろな楽器に触れられるところ。ギターもクラス全員分の数があるそうです。

奨学金に助けられて

震災が起きたのは綺羅さんが小学1年のときです。東松島市は南側が太平洋に面し、全世帯の約97%にあたる1万4000棟以上の家屋が地震と津波による被害を受けました。築2年ほどの綺羅さんの自宅は大規模半壊し、床上浸水の被害にも遭いました。津波による倒壊は免れたものの、水が引いたのは2日後のこと。建物のダメージはひどかったと母の佐和子さんはいます。

「誰にも文句はいえませんが、毎年毎年どこかしら修理しています。壁に隙間が空いて、それがまた余震で縮まったことも(笑)。」

それでも、綺羅さんにはできる限り経済的な理由で我慢させたくないと考えている佐和子さん。

「入学前に支給された奨学金は、制服や教科書、入学一時金などに使わせていただきました。その後は修学旅行などにあてようと考えています。お金のことで『無理だ』といわずにすんでいるのは、奨学金に助けていただいているからです」



「東松島は、自然が豊かで住みやすいところが好きです」

いつか制服をデザインしてみたい

将来について、綺羅さんには憧れている仕事のひとつあります。「私は制服が好きなので、いろいろな制服をデザインしてみたい。自分の高校のも好きですが、他校の制服を見たり、調べたり、自分でもデザインを考えたりしています。制服ってさまざまですが、もし私がつくるなら、その学校の校風にあった制服にしたいです」

夢を語る綺羅さんに、佐和子さんはいます。

「自分の人生は自分のもの。綺羅には家のこととか気にせず、自由に、強く優しく生きてほしいなと思います」

そんな家族の応援もあって、綺羅さんはいま、自分のやりたいことを見つけて、ひとつずつ挑戦しています。



「休日には新しい学校の友だちと仙台まで遊びに行くこともあります」

子どもたちに 夢を与えたいから ゲームクリエイターに

高山秀行さん(仮名)

岩手県上閉伊郡大槌町 高校1年生



大好きな大槌町。震災前の町並みを再現した模型を背に

大槌が大好きだから

大槌生まれの大槌育ち。中学卒業後も、大槌の高校に進学した高山秀行さん。地元の高校を選んだ理由は、大槌が復興する姿を近くで見たいから。

「昔の大槌は、お店がいっぱいあって活気にあふれていました。それが震災でなくなったので、元気な大槌をまた見たいなあ、と思います。僕の高校には復興研究会というのがあって、2年になったらぜひ入りたいです」

復興研究会は、神戸大学と共同で町内180地点の定点観測をするなど、町の復興につながる活動を続けています。秀行さんは来年この研究会に参加して、自らも復興に携わりたいと考えています。

町はまだまだ復興途上ですが、秀行さんは大槌の豊かな自然も大好き。子どものころから、友だちと海や川で釣りをしたり、山に登って遊んだりしてきました。



お昼の弁当は母の手づくり。「おかずはちょくちょく変わるけど、基本全部好きです」

「海釣りではいちばんの好物は、40cmちょっとのアイナメ。渓流ではヤマメなどを釣ります。魚をさばいたりもします」

魚の釣れるシーズンで部活のない日には、いまでも友だちと誘い合って釣りに行くそうです。

震災を経て得た夢

秀行さんは、将来ゲームクリエイターになりたいと考えています。学校から帰ったら、ゲームクリエイターの仕事について、いろいろと調べたり学んだりしているそうです。

「僕は、子どものころからゲームが好きです。とくに好きなのはロールプレイングゲームで、楽しいものや、感動できるストーリーもいっぱいあるんです」

秀行さんがゲームに親しんだのは、震災がきっかけとっていいかもしれません。震災が起きたのは、小学1年生のとき。築後わずか1年の家が流されたため、一家は避難所を経て母の実家へ。その後アパートに移り、しばらくして再び母の実家へ戻ります。気持ちも住まいも落ち着かないまま、小学生の秀行さんと2つ下の弟は、母の美津子さんとゆっくり話をする時間も取れない生活が続きました。美津子さんは、大きな被害を受けた職場で震災対応があり、当時は寝る暇もないほどの忙しさだったのです。

「家に帰るのは毎晩12時過ぎで、朝7時には出勤。子どもたちが寝た後に帰って、まだ寝ているうちに出て行くような生活です。震災後、子育ては実家のおばあちゃんに任せっきり。子どもたちには、さびしい思いをさせたと思います」

いまは美津子さんが子どもたちと向き合う時間をつくれるようになりましたが、気持ちの揺れた少年時代、秀行さんの毎日を明るく弾ませてくれたのが、ゲームであり、海や山と一緒に遊ぶ友だちだったのです。そんなこともあって、秀行さんは、将来ゲームの仕事に携わり、今度は自分が子どもたちに夢を与えるストーリーをつくってみたい、と考えるようになりました。

体を動かすことが好きだという秀行さん。小学校ではサッカー、中学では新しいことに挑戦しようと卓球部に。そして高校には卓球部がなかったため、バドミントン部に入りました。

中学とは違う部活に入ったので、道具一式を揃えるのにも奨学金が役立ったと美津子さんはいいいます。

「買うからにはちゃんと続けるんだよ、と確認した上で、奨学金を使わせていただきました。ほかにも制服をはじめ、入学の準備ってこんなにお金がかかるのかと思いました。でも、入学前に1年目の奨学金をいただけたので、それがすごく心強かったです」

始まったばかりの高校生活。新しい友だちもでき、秀行さんは、大切な夢に向かって歩み始めました。

社会とつながって 地域や人のために 行動したい

杉山さやかさん(仮名)

宮城県気仙沼市 高校2年生

「好きな授業は数学。物理もおもしろいです」という杉山さやかさんは、地元の高校に通う理系女子。「数学は、公式を覚えてそれを当てはめていけば答えが出る。そんな感じが好き」といいます。理系に強いということもあり、進路は医療系を目指しています。「看護学校とか大学の看護学科に進んで、地元で看護師になりたい。いちばん行きたいのは石巻の看護学校です」

調理部で忙しい毎日

さやかさんが震災にあったのは小学2年生のとき。当時暮らしていたのは、津波とその後の火災で大きく被災した地区で、さやかさんの自宅も全壊の被害を受けました。震災後に住んだ仮設住宅や復興公営住宅は、通っていた学校から遠かったのですが、友だちと離れたくなくて、小・中ともにスクールバスで学区外通学しました。でも、高校はいま暮らしている復興公営住宅に近く、ようやく帰りのバスの時間を気にせず通学できるように。そんなこともあって、さやかさんは部活にも忙しい日々をおくっています。

「部活は調理部です。ハロウィンでカボチャのプリンをつくるなど季節のイベントで料理をつくったり、食物調理検定の勉強をしたり、コンテストに応募するレシピを考えたり、ほぼ毎日活動しています」

先日、調理器具メーカー主催のスイーツコンテストに応募。チームで考えてつくったケーキの写真を送りました。

「『お母さんや地域の人に感謝を伝えたい』というコンセプトで、ヨーグルトムースやフランボワーズジャムを使ったレシピを考えました。飾りつけは、風船に垂らしてつくった飴細工とマジパンです」

華やかで可愛いケーキの写真(下)を見せてくれました。夏休み前に予選の結果が出て、本戦は夏休みにあるそうです。



「家でもクッキーを焼いたりします」

チームでコンテストに応募したケーキ



「文化祭のコンテストでは、クラスの皆と協力して動画をつくって楽しかった」

保護動物についての活動が自信に

もうひとつ、さやかさんがいま、やりがいを感じているのはNPOが主催する高校生向けプロジェクトへの参加です。自分たちで身の回りの課題についてテーマを決め、計画を立てて実行し、それを発表するというプロジェクトです。1年のときに学校でポスターを見かけ、地域のために何かできないかと、友だち3人でチームをつくりました。そうして決めたテーマは、「保護動物について皆に知ってもらって殺処分を減らそう!」というもの。

「保健所に行って話を聞き、一方の視点だけではダメだからと、ペットショップの方にも話を聞きました。また、海外の取り組みについて調べたりもしました」

その結果をまとめて、公民館や学校などで発表したそうです。「3人で取材をし、調べた結果、それぞれが全然違う考えを持っていました。ひとつにまとめることはできなかったけれど、それはそれでいいんじゃないかと思います。私自身は、野良猫ではなく、地域猫という捉え方をすれば、地域全体の猫として考えてもらえ、殺処分も減らせるのではないかという考えに至りました」

人前で話すのが苦手だというさやかさん。プレゼンテーションでは緊張したといいますが、動物保護活動をしている人に「高校生が考えてくれて嬉しい」といわれ、励みになったといいます。このテーマについては、それまでこのプロジェクトで取り上げる高校生がいなかったのので、「考える機会を増やすことはできたのではないか」と感じています。2年になった今年もまた、引き続き同じテーマを追求するそうです。「保護動物を引き取る人を増やすために、ペットのケーキなどをつくって、引き取った人と、引き取りたいけど悩んでいる人に交流を深めてもらってはどうか、という案は出ています」

まさに調理部の活動と合体したような企画。今年も忙しくなりそうです。さやかさんの成長ぶりを、母の絵美さんはこう語ります。「以前は引っ込み思案だったのに、自分のこともわりと話すようになりました。自信がついたのかもかもしれません。将来は、自分のことより誰かのために尽くせるような人になってほしい。いまでもそういうところがあるので、看護師を目指すのはそんな理由もあるのかな」

もの静かな印象ですが、社会としっかり向き合おうとするさやかさん。看護師という目標も掲げ、着実に前進しています。

子どもたちから、ご家庭

奨学生とその保護者の方々から、感謝の気持ちと

子どもたち
から
「ありがとう!」

THANK
YOU

この度は、たくさんのご支援をありがとうございました。私は、この奨学金を学用品の購入や登下校時に利用するBRT(バス高速輸送システム)の運賃に役立てたいと考えています。4月からスタートする高校生活では、大学への進学も視野に入れて勉強を中心に頑張りたいです。また、中学校でも取り組んできた生徒会活動や部活動、学校行事にも力を尽くしていきます。
(宮城県気仙沼市・中3・男子)

皆さんからの支援で不安がなくなった

今年からは高校で商業系列を選択し、簿記について学びたいと思います。在学中に多くの資格取得に挑戦し、自分自身を大きくスキルアップさせられるよう努力していきたいです。学校へ通うためにはたくさんのお金が必要です。私の家はあまり余裕がないので、両親に負担をかけてしまうのではないかと不安な気持ちがありました。皆さんから支援していただけるというお話を聞いて、その不安がなくなっていくのを感じました。毎日の学校生活を、自分らしく精いっぱい頑張ることが、皆さんへの恩返しになると信じて、今後も過ごしていきたいです。(宮城県気仙沼市・高2・女子)

常に誰かに支えられて生きている

東日本大震災を経験して、人は一人では生きていけない!常に誰かに支えられて生きているということを感じました。周りの方々に感謝の気持ちを忘れず、高校では寮生活をしながら硬式野球をやっていくつもりです。奨学金は野球道具や学用品の購入に使いたいと考えています。当たり前のことですが、ものを大事にして、支援してくださる方々の期待に応えたいと思います。(宮城県東松島市・中3・男子)

ふるさとを新たな魅力あふれる地に

高校卒業後は大学の経済学部に進みたいと考えています。そう考えたきっかけは東日本大震災にあります。日常を一瞬にして喪失し、絶望したのをいまでも覚えています。この経験から、経済について学び、一瞬にして変貌したふるさとを、また新たな魅力あふれる地として変革していきたいと思いました。3年間、奨学金を給付してくださり、ありがとうございました。(岩手県大船渡市・高3・女子)



お陰様で毎日勉強や部活動に励んでいます。これからもしっかり頑張っていきたいです。

(宮城県気仙沼市・高2・男子)

笑顔を増やせる看護師に

私は看護師になりたいと思っており、日々の勉強に励んでいます。また、多くの知識を学ぶため高校へ進学し、次のステップである大学進学という目標を持っています。人のため、そして地域医療のため、ひとつでも多く笑顔を増やせるような看護師になりたいと思います。(宮城県東松島市・中3・女子)

から、「ありがとう!」

ともに寄せられたお便りを抜粋してご紹介します。

新しい校舎、 仮設住宅のなくなった校庭で

4月9日、高校に入学しました。5年前にできた校舎はとてもきれいです。1年生の教室は4階にあるので窓から海が見えます。仮設住宅がなくなった校庭には、いま桜が咲いています。中学は仮設グラウンドで、体育が外でできなかったのが、校庭での体育がとても楽しみです。(岩手県陸前高田市・高1・女子)

人の役に立つロボットをつくりたい

僕は将来、災害時に人の役に立つ人工知能を搭載したロボットをつくりたいと考えています。東日本大震災で災害の恐怖を実感し、ひとつでも多くの命を救いたいと思ったからです。その実現のため、高校では専門的な知識をたくさん学びたいと考えています。いただいた奨学金は、学習道具や専門書の購入など、学びを深めるために使わせていただきたいと思います。(岩手県陸前高田市・中3・男子)

消防士になるために

僕は将来、消防士という職に就きたいと思っています。奨学金は、消防士になるための参考書などに使わせていただきます。少しでも社会に貢献できる人間になることが、僕にできる恩返しだと思っています。(宮城県気仙沼市・高2・男子)



(岩手県陸前高田市・中3・女子)

保護者から お礼のメッセージ

希望の见えない中、 子どもの将来の糧となった奨学金

被災した中での子育てはあっという間で、子どものことをいちばんに考えられない日も多々あり、少し落ち着いてきたいま、できることならもう一度子育てをしたいとよく考えます。そのようなあわただしい中、さらに将来への希望も見えず、ただただ一日一日進んできましたが、奨学金を受けることができました。私たちの力だけでは不十分だったときに、皆さまからのご支援でお力をいただき、私たち夫婦も頑張っています。3年間ありがとうございました。(宮城県気仙沼市)

やりたいことをあきらめさせずにすんだ

高校生活も最後の年となりました。子どもたちそれぞれが夢を語り、環境を整えることができたのは、やはり支援者の方々のおかげでした。親子で何度も話し合いをし、やりたいことをあきらめさせなかったことを、親として嬉しく思います。野球も、将来の夢も、あきらめないでここまでこられたことに感謝したいです。(宮城県気仙沼市)

公務員になる夢を叶えてほしい

震災後、以前のような生活に戻りたいと家族全員で思い、どうにか自宅を再建することができました。ただ、それに伴う借入もあり、この奨学金にどれだけ助けられたことでしょう。息子は4月から高校3年となり、残り少ない部活動に励んでおります。将来の夢である公務員という目標を実現し、社会に貢献して恩返ししてってもらいたいと願っております。(宮城県気仙沼市)

健やかな高校生活は奨学金のおかげ

中学3年からの支給のおかげで、高校進学時の諸経費に充てることができました。また、諸納金の支払い、進級時の教科書などの購入と、高校生活をおくる中で必要な経費に充ててきました。ユネスコ協会就学支援奨学金のおかげで健やかな高校生活をおくることができています。全国の募金者の方々に心よりお礼申し上げます。(宮城県石巻市)



岩手県上閉伊郡大槌町

大槌町は、沿岸部に面した町の中心部が、地震と津波、その後の火災によってほぼ壊滅状態となり、多くの方が犠牲になりました。現在、堤防の造成とかさ上げ工事が進み、新しい町並みがつくられつつあります。



大槌湾に浮かぶ蓬萊島は、NHKの人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルとされる。震災によって灯台や防波堤が倒壊したが再建され、復興のシンボルとなっている。



2019年3月、JR山田線の宮古～釜石間が開通、三陸鉄道に運営移管され、震災以来、復旧作業が続いていた三陸鉄道リアス線が1本につながった。真新しい大槌駅の屋根(写真右)は蓬萊島にちなんでひょうたん型をしている。



瓦礫が撤去された後の町の中心部。正面の茶色い建物は被災した町立図書館。(2012年4月撮影)



左の写真とほぼ同じ地点(2018年11月撮影)。左にある白い建物は新しくできた大槌町文化交流センター「おしゃっち」。この中に町立図書館もあり、人びとが集う場となっている。

東日本大震災子ども支援募金事業（2018年4月1日～2019年3月31日）

ユネスコ協会就学支援奨学金

（単位：円）

項 目	金 額
前期繰越	373,414,190
寄付額	117,829,264
支出額	186,598,404
奨学金	165,600,000
事業経費	20,998,404
次期繰越	304,645,050

※ユネスコ協会就学支援奨学金は、原則として、奨学生1人につき3年間にわたって支援します。

※次期繰越金は、2017年度に採用した奨学生の3年目分の給付に係る事業費用および2018年度に採用した奨学生の2～3年目分の給付に係る事業費用、そして2019年度に新規採用する奨学生の3年間分の給付に係る事業費用などを含む2019年度以降の本奨学金事業に使用されます。

ご協力方法



子どもたちの高校進学を支える奨学金

東日本大震災 子ども支援募金 ユネスコ協会就学支援奨学金

子どもたちが未来に夢を描けるよう、私たちは支援を続けてまいります。皆さまからの募金で子どもたちへの奨学金が継続できます。引き続き皆さまのご協力をお願いいたします。
※日本ユネスコ協会連盟へのご寄付は、寄付金控除の対象になります。

銀行振り込みによる募金

以下の「ユネスコ協会就学支援奨学金」の専用募金口座までお願いいたします。

**三菱UFJ銀行 神田支店 普通 0297275
シャ) ニホンユネスコキョウカイレンメイ**

※領収書が必要な方は、大変お手数ですが、日本ユネスコ協会連盟までご連絡ください。

インターネットからの募金

ホームページからクレジットカード決済による募金をお申込みいただけます。

ユネスコ

検索

www.unesco.or.jp



毎月の継続的な定額募金

『月1・いいことプログラム』

クレジットカードの場合

ホームページから直接お申込みいただけます。

募金先として「ユネスコ協会就学支援奨学金」を指定される場合は、ご要望欄にお書き添えください。

月1いいこと

検索

www.unesco.or.jp



口座振替の場合

口座振替申込書をお送りします。お手数ですが、ご希望の方は当協会連盟までご連絡いただきますようお願いいたします。

お問い合わせ先

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1
朝日生命恵比寿ビル12階

TEL：03-5424-1124（9：30～17：30／土・日・祝日を除く）／FAX：03-5424-1126／E-mail：nfuaj@unesco.or.jp

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

子どもたちの学びを支える支援の輪

ユネスコ協会就学支援奨学金は、以下の企業・団体をはじめとする多くの皆さまから
温かいご協力をいただいております。改めて御礼申し上げます。

あいおいニッセイ同和損保
MS&AD INSURANCE GROUP

あいおいニッセイ同和損害保険
株式会社



アクサ生命

アクサ生命保険株式会社



旭酒造株式会社

NEC

NECキャピタルソリューション

NECキャピタルソリューション
株式会社

NTT docomo

NTTドコモグループ



鎌倉大仏殿高德院

宗教法人高德院



株式会社光明工事



三州ペイント株式会社

NOSAN

日本農産工業株式会社



一般社団法人
日本の伝統を守る会



FOREVER®

フォーエバーリビングプロダクツ
ジャパン



ブルーチップ株式会社



株式会社ベルセラージュ本社

ほるぶA&I

株式会社ほるぶエーアンドアイ



株式会社マルヨネ

MUFG

三菱UFJニコス

三菱UFJニコス株式会社

MUFG

株式会社
三菱UFJフィナンシャル・グループ

(五十音順・敬称略)

ポイント交換・ポイント募
金のメニューから「ユネス
コ協会就学支援奨学金」へ
の支援を選択してご協力
いただけます。



JRE POINT
(JR東日本の共通ポイント)



Tポイント募金

ご協力いただいた皆さま

個人募金者の皆さま

全国の個人募金者の方々からも多大なご支援をいただきました。

企業・団体の皆さま

上記でご紹介しきれなかった企業・団体の皆さまからもたくさんのご協力をいただきました。

子どもたちから子どもたちへ

幼稚園から大学まで、子どもたちや学生の皆さまからも、心のこもったご寄付が寄せられました。

会員の輪

日本各地のユネスコ協会・ユネスコクラブも継続した支援活動を行っています。
また、維持会員・賛助団体会員・個人会員の皆さまからも、
ユネスコ精神のもと温かいご協力をいただきました。



ジョルジオ・アルマーニ氏が来日 2011年の奨学生と面会



イタリアの有名ファッションデザイナー、ジョルジオ・アルマーニさんは、東日本大震災で被災した子どもたちを心配し、震災後いち早く「ユネスコ協会就学支援奨学金」にたくさんの寄付をお送りくださいました。

2019年5月、東京でのファッションショーのため来日したアルマーニさんは、多忙な来日スケジュールの中、2011年に支援した子どもたちのうち3人の元奨学生と面会。震災後の大変な生活を生き抜いてきた3人は、現在、大学生や社会人として立派に成長しています。

元奨学生たちがアルマーニさんに心からの感謝の気持ちを伝える

と、アルマーニさんは「いちばん大事なのは命。命こそ財産。日本の震災に私は心から痛みを感じました。なによりいまこうして話すことができてうれしい。皆さんの夢や仕事は、社会にとっても大切。これからも頑張って」と温かい励ましの言葉をかけてくださいました。

元奨学生たちは、世界的なデザイナーを前にして、緊張で震えながらも大興奮。こんな素敵な出来事があるなんて、本当に生きてよかった、帰り道にうれしそうに話してくれました。

「あいづ相撲場」が完成！

東日本大震災当時、力士会の会長だった横綱・白鵬関（UNESCOスポーツチャンピオン）の呼びかけで、力士会所属の力士が寄付をして、被災地に相撲場をつくる復興支援活動が始まりました。岩手県下閉伊郡山田町、宮城県気仙沼市に続き、2018年6月には福島県会津若松市に新しい相撲場が完成。この「あいづ相撲場」の完成を祝い、力士会の現会長である横綱・鶴竜関も駆けつけ、盛大な土俵開きの式典が行われました。

土俵開きの後は、全会津中学校体育連盟の相撲競技大会が開催され、約100名の中学生力士、保護者、地域住民など大勢の方々が参加しました。この相撲場が今後の会津地域の発展に少しでも役立つことを願います。



現在も活躍！ 2011年度に寄贈したスクールバスと移動図書館車

震災後、家を失って学区や行政区を超えた仮設住宅などで避難生活を送っている子どもたちがいました。また、瓦礫で通学路の安全が確保できない状況になったこともあり、2011年度、企業のご協力を得て岩手県の釜石市などにスクールバスを寄贈しました。8年が経ち、仮設住宅がなくなった現在も、学校の統合や移設などによって遠方から通う子どもたちのために市内を走り、活躍しています。

同じく2011年度に、仮設住宅の子どもたちや被災で図書館から住居が遠くなった子どもたちの心の支えになることを願い、企業のご協力を得て、移動図書館車を支援しました。図書館が被災した岩手県の大槌町では、新しい図書館が再建されたいまも、図書館から距離のある子どもたちのために、当時の移動図書館車が町内20カ所を回って本を届けています。



2011年度に寄贈した
移動図書館車（大槌町）



2011年度に寄贈したスクールバス（釜石市）

きょういくで、あしたへいく。

日本ユネスコ協会連盟の活動

私たちは、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と謳^{うた}う国際連合教育ユネスコ協会・ユネスコクラブとともに1947年から草の根で活動続けるNGOです。「平和な世界の構築」と「持続可能な社会の推進」

国連が提唱する持続可能な開発目標＝SDGs (Sustainable Development Goals)の達成に貢献するため、とくに目標4「質の高い教育」を目指して活動しています。

ユネスコ協会就学支援奨学金のほかにも、東日本大震災 子ども支援募金では、以下の2つの活動を行っています。

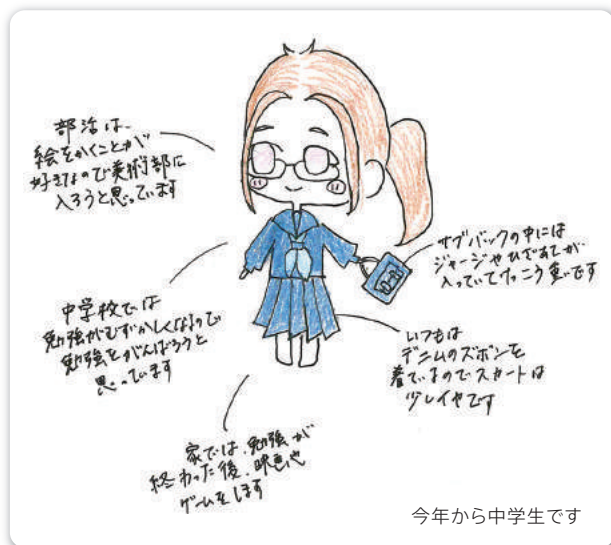
※これらの活動の報告は別冊「活動レポート2018」をご覧ください。

MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金

三菱UFJフィナンシャル・グループ (MUFG) と協働して標記基金を創設。震災により両親もしくはいずれかの保護者を亡くした小学校から高等学校までの児童生徒を対象とした返還不要の奨学金プログラムです。

これまでの累計で1486名に奨学金を給付しました。2019年3月時点での奨学生は564名となり、そのうち95名が高校を卒業し奨学金の給付を終えました。奨学生一人あたり一時金10万円＋月額2万円を高校卒業まで給付します。この奨学金事業は長期的な生活と勉学の支援を目的とし、奨学金を返還する必要はありません。最終奨学生が高校を卒業する2025年度まで継続します。

このほか、心豊かな成長プログラムとしてTOMODACHI・MUFG国際交流プログラムを実施。奨学生を含む被災地の中高生20名がロサンゼルスに招待され、現地の生徒たちと交流し、異文化理解を深める機会となりました。



いつもご支援ありがとうございます。4月から中学生になりました。中学校では勉強と部活を両立できるように頑張りたいと思います。勉強ではとくに数学や英語を頑張りたい、部活では小学校から続けている卓球で県大会に行けるように頑張りたいと思います。これからもよろしくお願いいたします。(宮城県・女子)



ソフトボール部で頑張りました

高等看護学校の2学年に進級しました。学級では委員長を務めさせていただいています。2年生になり看護教科が増えました。秋には戴帽式があり病院実習も始まります。患者さんに不快な思いをさせないよう、日々の勉強に力を入れ取り組んでいきたいと思っています。素早く判断ができ、患者さんに頼られる立派な看護師になれるよう、1年1年の学習を大切にしていきます。(岩手県・女子)



吹奏楽部で頑張っています

早いもので父を亡くし8年、地獄のような日々が、あれは夢だったのかと思うようになり、苦しみは悲しみになり、父を思い出して泣いていた日々が、いまは時間という薬が私を笑顔にして父のことを笑って思い出しています。それは自分ひとりだけががんばったのではなく、皆さんの支援で成り立っていると思って感謝しています。(宮城県・女子)



TOMODACHI・MUFG国際交流プログラムで

アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

東日本大震災の記憶と経験を、全国の学校防災につなげることを目的に、災害時に地域の重要な防災拠点となる学校と子どもたちの防災力の向上を目指し、助成金、教員研修会、活動報告会という3つのサポートを通じて、減災教育を支援しています。

これまでの5年間で、104校に助成し、助成活動に参加した児童・生徒はのべ2万2888名、助成活動に携わった教員・保護者・地域の方々は1万7211名に上ります。また、160名を超える助成校の先生が教員研修会に参加し、100名以上の先生が活動報告会で実践を発表・発信しました。

科学文化機関（UNESCO）憲章の理念に賛同し、全国にある約280のをミッションに掲げ、国内外でさまざまな活動を展開しています。
「教育をみんなに」を重点ゴールに据え、「教育を通じた平和な世界へ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



世界寺子屋運動

教育が、夢や未来を描く力に。

貧困・紛争・性差などの理由で、教育を受けられない人びとのために。
途上国に学びの場とその機会を提供し、生きる力を育みます。



世界遺産活動・未来遺産運動

知識と誇りを、つぎの世代へ。

人類共通のたからである世界遺産と日本の大切な自然や文化を、尊ぶ
心を育み、保護・保全を通じて、未来へ継承していきます。



減災教育と自然災害発生後の教育支援

災害を生き抜き、未来を育む学びの支援。

自然災害の被害を抑える減災教育とともに、被害をうけた子どもたちの
学びや夢を支える教育支援を行っています。

- ユネスコ協会就学支援奨学金
- MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金
- アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム



SDGs 達成に向けた次世代育成

未来の担い手が、ここから生まれる。

誰一人取り残さない、よりよい地球をつくるために。グローバルな視野
をもって学び、地域で活動する次世代を育成しています。

【北海道ブロック】

北海道ユネスコ連絡協議会

旭川ユネスコ協会
石狩ユネスコ協会
岩内ユネスコ協会
江差ユネスコ協会
恵庭ユネスコ協会
江別ユネスコ協会
小樽ユネスコ協会
帯広ユネスコ協会
北広島ユネスコ協会
釧路ユネスコ協会
倶知安ユネスコ協会
札幌ユネスコ協会
知床ユネスコ協会
千歳ユネスコ協会
苫小牧ユネスコ協会
名寄ユネスコ協会
函館ユネスコ協会
室蘭ユネスコ協会
稚内ユネスコ協会

【東北ブロック】

(一社) 青森県ユネスコ協会

秋田県ユネスコ連絡協議会

秋田ユネスコ協会
横手ユネスコ協会
岩手県ユネスコ協会連盟
一関ユネスコ協会
江刺ユネスコ協会
大船渡ユネスコ協会
釜石ユネスコ協会
川崎ユネスコ協会
北上ユネスコ協会
久慈ユネスコ協会
衣川ユネスコ協会
浄土寺ユネスコ協会
千厩ユネスコ協会
滝沢ユネスコ協会
遠野ユネスコ協会
二戸市ユネスコ協会
花巻ユネスコ協会
東山ユネスコ協会
平泉ユネスコ協会
前沢ユネスコ協会
水沢ユネスコ協会
宮古ユネスコ協会
盛岡ユネスコ協会
陸前高田ユネスコ協会

宮城県ユネスコ連絡協議会

気仙沼ユネスコ協会
塩釜ユネスコ協会
白石ユネスコ協会
(公社) 仙台ユネスコ協会
山形県ユネスコ連絡協議会
酒田ユネスコ協会
鶴岡ユネスコ協会
福島県ユネスコ連絡協議会
会津ユネスコ協会
いわきユネスコ協会
郡山ユネスコ協会
郡山次世代ユネスコ協会
白河ユネスコ協会
須賀川地方ユネスコ協会
福島ユネスコ協会
佐渡ユネスコ協会
(一社) 新潟市ユネスコ協会

【関東ブロック】

栃木県ユネスコ連絡協議会

足利ユネスコ協会
大田原ユネスコ協会
開倫ユネスコ協会
佐野ユネスコ協会

日光ユネスコ協会
群馬県ユネスコ連絡協議会
安中碓氷ユネスコ協会
伊勢崎ユネスコ協会
大泉ユネスコ協会
太田ユネスコ協会
桐生ユネスコ協会
高崎ユネスコ協会
館林ユネスコ協会
富岡ユネスコ協会
中之条ユネスコ協会
沼田ユネスコ協会
藤岡地方ユネスコ協会
前橋ユネスコ協会
埼玉県ユネスコ連絡協議会
越谷ユネスコ協会
(NPO法人) さいたまユネスコ協会
草加ユネスコ協会
秩父ユネスコ協会
蓮田・白岡地方ユネスコ協会
深谷地方ユネスコ協会
寄居地方ユネスコ協会

茨城県ユネスコ連絡協議会

茨城県西地方ユネスコ協会
北茨城ユネスコ協会
土浦ユネスコ協会
日立ユネスコ協会
ひたちなかユネスコ協会
水戸ユネスコ協会
千葉県ユネスコ連絡協議会
(認定NPO法人) 市川市ユネスコ協会
浦安市ユネスコ協会
柏ユネスコ協会
香取・佐原ユネスコ協会
木更津ユネスコ協会
千葉ユネスコ協会
富里ユネスコ協会
成田ユネスコ協会
船橋ユネスコ協会
八街ユネスコ協会
四街道市ユネスコ協会

東京都ユネスコ連絡協議会

浅草ユネスコ協会
朝日生命ユネスコクラブ
(NPO法人) 維新隊ユネスコクラブ
大田ユネスコ協会
小平ユネスコ協会
渋谷ユネスコ協会
新宿ユネスコ協会
杉並ユネスコ協会
スプリングユネスコクラブ
スポーツと平和を考えるユネスコクラブ
玉川大学ユネスコクラブ
立川ユネスコ協会
千代田ユネスコ協会
(NPO法人) としまユネスコ協会
ふるさと東京ユネスコ協会
(NPO法人) 平和の文化東京ユネスコクラブ
舞音の守ユネスコクラブ
まちだ・さがみユネスコ協会
郡が倉江戸東京ユネスコクラブ
港ユネスコ協会
ミンガラバー・ユネスコクラブ
武蔵野ユネスコ協会
(NPO法人) 目黒ユネスコ協会
ユネスコ・アルムニ・クラブ
ICUユネスコクラブ
全国的青年連絡組織

【中部ブロック】

山梨県ユネスコ連絡協議会

忍野ユネスコ協会
甲府ユネスコ協会
富士川町ユネスコ協会

山梨市ユネスコ協会
長野県ユネスコ連絡協議会
飯田ユネスコ協会
上田ユネスコ協会
(NPO法人) 木曾ユネスコ協会
諏訪ユネスコ協会
長野ユネスコ協会
(NPO法人) 松本ユネスコ協会
静岡県ユネスコ連絡協議会
伊豆ユネスコクラブ
磐田ユネスコ協会
静岡ユネスコ協会
清水ユネスコ協会
沼津ユネスコ協会
浜松ユネスコ協会
神奈川県ユネスコ連絡協議会
厚木ユネスコ協会
(NPO法人) 鎌倉ユネスコ協会
横浜ユネスコ協会

【中部西ブロック】

富山県ユネスコ連絡協議会

富山ユネスコ協会
富山ユネスコ協会 青年部
南砺ユネスコ協会
氷見ユネスコ協会
石川県ユネスコ協会
大垣ユネスコ協会
各務原ユネスコ協会
岐阜県ユネスコ協会
岐阜市長良川ユネスコ協会
高山ユネスコ協会
ユネスコクラブ日本ライン
豊橋ユネスコ協会
名古屋ユネスコ協会
三重県ユネスコ連絡協議会
亀山ユネスコ協会
紀北町ユネスコ協会
菟野ユネスコ協会
津ユネスコ協会
名張ユネスコ協会
松阪ユネスコ協会
ふくいユネスコ協会

【近畿ブロック】

長浜ユネスコ協会
彦根ユネスコ協会
京都府ユネスコ連絡協議会
京都ユネスコ協会
福知山ユネスコ協会
舞鶴ユネスコ協会
ユネスコ京都クラブ
大阪府ユネスコ連絡協議会
エリーニ・ユネスコ協会
(NPO法人) 大阪ユネスコ協会
大阪北河内ユネスコ協会
堺ユネスコ協会
箕面ユネスコ協会
奈良県ユネスコ連絡協議会
飛鳥・橿原ユネスコ協会
斑鳩ユネスコ協会
天理ユネスコ協会
奈良ユネスコ協会
吉野ユネスコ協会
和歌山県ユネスコ連絡協議会
岩出ユネスコ協会
貴志川ユネスコ協会
紀南ユネスコ協会
紀北ユネスコ協会
新宮ユネスコ協会
那賀・青洲ユネスコ協会
橋本ユネスコ協会
和歌山ユネスコ協会
兵庫県ユネスコ連絡協議会

相生ユネスコ協会
芦屋ユネスコ協会
尼崎ユネスコ協会
伊丹ユネスコ協会
川西ユネスコ協会
神戸ユネスコ協会
三田ユネスコ協会
丹波篠山ユネスコ協会
宝塚ユネスコ協会
西宮ユネスコ協会
姫路ユネスコ協会
三木市ユネスコ協会

【中国ブロック】

岡山県ユネスコ連絡協議会

岡山ユネスコ協会
倉敷ユネスコ協会
津山ユネスコ協会
広島県ユネスコ連絡協議会
因島ユネスコ協会
尾道ユネスコ協会
東広島ユネスコ協会
広島ユネスコ協会
宮島ユネスコ協会
山口県ユネスコ連絡協議会
山口県青年ユネスコ連絡協議会
岩国ユネスコ協会
宇部ユネスコ協会
下関ユネスコ協会
下関ユネスコ協会 青年部
徳山ユネスコ協会
長門ユネスコ協会
萩ユネスコ協会
光ユネスコ協会
防府ユネスコ協会
山口ユネスコ協会
鳥取県ユネスコ連絡協議会
倉吉ユネスコ協会
鳥取ユネスコ協会
米子ユネスコ協会
出雲地区ユネスコ協会
石見地区ユネスコ協会

【四国ブロック】

香川県ユネスコ連絡協議会
高松ユネスコ協会
高松ユネスコクラブ
多度津ユネスコ協会
丸亀ユネスコ協会
愛媛県ユネスコ連絡協議会
今治ユネスコ協会
大洲ユネスコ協会
四国中央ユネスコ協会
新居浜ユネスコ協会
北条ユネスコ協会
松山ユネスコ協会
徳島ユネスコ協会

【九州ブロック】

久留米ユネスコ協会
佐賀ユネスコ協会
大分県ユネスコ協会連盟
おおいた草の根ユネスコ協会
別府ユネスコ協会
熊本ユネスコ協会
高鍋ユネスコ協会
日南ユネスコ協会
延岡ユネスコ協会
都城ユネスコ協会
鹿児島ユネスコ協会
徳之島ユネスコ協会
沖縄県ユネスコ協会
沖縄でいごユネスコ協会

2019年8月現在



公益社団法人

日本ユネスコ協会連盟

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12階
TEL:03-5424-1121(代) FAX:03-5424-1126
https://www.unesco.or.jp E-mail:nfuaj@unesco.or.jp

2019年9月発行